

福祉フォーラム通信

No.31 発行日：2025年5月1日

2024年度龍谷大学福祉フォーラムでは、専門セミナーを2回開催しました。専門セミナーとは、社会福祉実践に関わる専門職やスタッフの方を対象とした講座です。福祉、保健、教育などの現場で直面する問題についての悩みや解決策を話し合いながら、専門的スキル向上を目指しました。

ご報告

福祉フォーラム第29回専門セミナー

「ともにいるための支援待てない現場におけるジレンマ」を開催しました。

- | | |
|-----|---|
| 日 時 | 2025年1月18日(土) 13時30分～15時30分 |
| 場 所 | 龍谷大学瀬田キャンパス 6号館1階グループワーク実習室 |
| 内 容 | 1. 導入「待つことと支え」 山田 容(龍谷大学社会学部教授) |
| | 2. 実践報告 |
| | 川添芽衣子さん(済生会滋賀県病院 MSW 社会福祉士) |
| | 恒松睦美さん(特定非営利活動法人あめんど、草津市 SSW 社会福祉士・精神保健福祉士) |
| | 藤田祐介さん(ことう法律事務所 弁護士・社会福祉士) |
| | 3. コメント 桐高とよみさん(特定非営利活動法人ばんじー 社会福祉士) |
| | 4. グループディスカッションとアフタートーク |

23名の参加を得て開催された今回のセミナーのテーマの「待つ」は、支援原則では重要とされる利用者主体の態度でありながら、実践を取り巻く現実はそのことを許してくれず、利用者の思いを尊重したい支援者にとって大きな葛藤となっています。その現状を仕方ないとするだけでなく、言葉にし、共有しつつ「待つ」ことの意味を考えてみたいとの企画意図のもと、医療ソーシャルワーク、法律、学校ソーシャルワーク・地域支援の現場で活躍されている3名の専門家から「待つ」ことを踏まえた実践とそのジレンマなどを語っていただきました。すべてのお話から、利用者を大切にしようとする真摯な思いが伝わり、同時にだからこそ抱かれている苦悩も感じられました。

さまざまな分野、立場の方々からなるグループに分かれての意見交換では、登壇者のお話から多くの刺激を受けた参加者が、自身の経験を踏まえた「待つ」ことについて語られていました。異なる場にいるからこそ分かち合える視点、意見が交差しつつも、「待つ」ことを大事にしようとする思いが重なりあい、実践への肯定的なエネルギーが循環していくような時間でした。

グループディスカッションの後に設けたフリータイムであるアフタートークの時間にも、多くの方が残って下さり、登壇者、グループのメンバーとお話しを続けられていました。その光景は、企画者としては代えがたい喜びであり、こうした場を多くの支援者が求めていることもまた感じました。「待つ」ことのジレンマは支援者を苦しめますが、同時にそれは大切にしている利用者を大切にしようとする価値があるからこそであり、誇りに思っていたきたいことです。同業、同種の講習では、実践を有効に機能させるための方法がテーマとされがちですが、こうしたいわばあいまいではあっても意味あるテーマについて、多様な立場の参加者が話す機会を提供できることこそ、この福祉フォーラムの大きな役割であると実感しました。



福祉フォーラム第 30 回専門セミナー

「宗教 2 世を支援する～子どもに何が起きていたのか～」を開催しました。

- 日 時 2025 年 2 月 22 日 (土) 13 時 00 分～16 時 00 分
 場 所 龍谷大学瀬田キャンパス 6 号館 1 階グループワーク実習室
 進 行 1. 基調講演 テーマ「被支援者に対する対応のあり方」
 夏野 なな さん (一般社団法人スノードロップ)
 2. 当事者からの「証言」：司会 ほほこさん
 ①WILL (ウィル) さん ②ひとみさん ③阿久 (あく) さん
 3. グループディスカッション
 前半：支援の場で出会うこと／後半：どのようなことが支援になるのか
 4. まとめ

2023 年度龍谷大学福祉フォーラム第 28 回専門セミナー『子ども期の逆境体験(ACE)』をもつ若者をどう支援するか？～当事者と研究者の視点を交差する～において、宗教 2 世の問題に直面している人々の支援に関わっているほほこさんから当事者の視点／経験をご報告いただいた際、参加者の方々から宗教 2 世に対する支援について関心を持っていただきました。

これを受けて 2024 年度は「宗教 2 世を支援する～子どもたちに何が起きていたのか」をテーマに専門セミナーを開催することができました。登壇者のコーディネートに際しては、ほほこさんの多大なるご協力をいただきました。

夏野ななさんによる基調講演では、「宗教の信仰等に関係する児童虐待等への対応に関する Q&A」に基づいて、具体的にどのようなことが宗教の信仰等に関連する児童虐待にあたるのか、丁寧に説明していただきました。ほほこさんからは、教団が騎馬戦や他の宗教に関連した行事に参加しないことを証言するよう指示した教団発行の冊子についての解説などをしていただき、「証言」を伺う際の背景知識を得ることができました。Will さん、ひとみさん、阿久さんから子ども期からこれまでの体験に関する心に訴えかける「証言」をいただきました。

登壇者の皆さんのお話からは、教団の教えとその組織のルールに、子どもといえども容赦なく厳しく従わせるあり方が、子どもの人生に与える影響の大きさが深く伝わりました。

お話を伺った後、8 名の参加者の皆さんとともに登壇者の方もグループに入っていて、伺ったお話しから受け取ったことを共有する場を持ちました。2 つのグループに分かれて議論しましたが、どちらのグループにおいても参加者の皆さんと登壇者の方々との間で心温まる共有と交流が生まれました。気づかれにくい問題に気づくことの難しさ、お話を聞くことの大切さ、お話しして下さることの尊さを確認できる専門セミナーとなりました。素晴らしい場を作ってくださった、登壇者の皆様、参加者の皆様に感謝いたします。



Ryukoku University

福祉フォーラム通信

No.31

編集：龍谷大学福祉フォーラム事務局 (REC 滋賀) □

<https://ryukoku.ac.jp>

Tel 077-544-7291 Fax 077-543-7771

E-mail r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp

HP <https://rec.seta.ryukoku.ac.jp/welfare/>